

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 122 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 122 回 : 2025 年 4 月 28 日 (月) 10:00~11:45

2. 場所 Web 開催 (Webex)

3. 出席者

(出席委員) 牟田主査, 桐本副主査, 高橋 (拓) 幹事, 丹野幹事, 橋本幹事, 佐藤, 西野,
羽佐田, 岩谷, 生野, 吉川, 浦上 (竹中委員代理), 小森 (13 名)
(常時参加者) 久保, 根岸 (2 名)
(委員候補) 多和

(敬称略)

4. 配布資料

- P4SC-122-1 第 121 回レベル 1 PRA 分科会議事録
- P4SC-122-2 人事について
- P4SC-122-3 レベル 1PRA 旧標準の廃止について
- P4SC-122-4-1 パラメータ推定標準改定方針まとめ
- P4SC-122-4-2 パラメータ推定標準改定新旧比較
- P4SC-122-4-3 パラメータ推定標準改定試案

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 13 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また, 配布された資料が確認された。

(2) 前回議事録確認

資料 P4SC-122-1 により, 前回分科会の議事録の確認を行った。

(3) 人事について

資料 P4SC-122-2 により, 吉川委員 (原子力エンジニアリング) の退任と多和常時参加者
(原子力エンジニアリング) の登録解除が報告され, 多和委員候補 (原子力エンジニアリン
グ) の委員新任が承認された。

(4) レベル 1PRA 旧標準の廃止について

資料 P4SC-122-3 により、基準・指針制定前の旧標準である「原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 1PRA 編）：2013」及び「原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 1PRA 編）：2019」の廃止について、前回の議論に基づき継続審議した。主な議論は次のとおり。審議の結果、旧標準の廃止についてリスク専門部会・標準委員会の審議に付すことが決議された。

- ・当該標準においては、廃止後においても継続して利用者が参照することを阻害するものではない。
- ・当該標準の廃止に伴い用語の定義としてなくなるものがあるが、このことによる特段の障害は生じない。
 - －元は米国等でも用いられている用語であり、同様の意味で使用されているので、定義自体がなくなることはない。
 - －資料で確認のとおり、廃止後の標準であっても継続して参照することはできる。

(5) パラメータ推定標準改定について

資料 P4SC-122-4-1～4-3 により、パラメータ推定標準の改定に向けた試案について審議を行った。主な議論は次のとおり。

- ・PRA 標準との整合で内的事象を適用範囲とすることになるが、内部溢水・内部火災・地震など外的事象においても必要に応じて本標準が参照できる形とする。
- ・本標準の内容から、PRA 標準との一体化や追補とすると、むしろ分り難くなるであろうことから、まずは標準階層化の中で独立した指針として構成する方向とする。
- ・内部溢水・内部火災など外的事象で本標準が適用可能な例は、解説に記載しておく。
- ・用語の定義に関して、パラメータ推定に関するものは一通りまとまって参照できる方が使い易いため、共通用語の定義と重複するものであっても、パラメータ推定に関する基本的な用語などについては、本標準でも定義しておく。共通用語の定義に追加する情報が生ずることも考えられる。同じく、附属書での使用の用語であっても基本的な用語は定義しておく。
- ・共通用語の定義と重複する用語が改定された場合には、原則としてこちらも改定していくことになるため、重複している用語が分かるように配慮する。
- ・標準委員会の用語辞典に関しては、相違あれば分科会から改定要望が出せる。
- ・改定試案である資料 P4SC-122-4-3 の内容につき、次回分科会までに分担を決めてレビューすることとなった。レビューの観点としては、指針としての構成、標準としての使い易さ、情報の適切さや文献調査内容の反映具合などとし、コメントや代案などあれば提示する。分科会三役で分担等を調整の上、別途レビュー依頼を出す。

(6) 今後の予定について

次回分科会は、7月中一下旬を目途に改めて調整することとなった。

以上